

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

## 公益財団法人協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫  
両団体理事長 半 田 晴 久  
専 務 理 事 清 原 淳 平

### 交通部会のお知らせ (第243回)

日 時 平成28年10月26日(水) 午後2時半～4時半  
場 所 衆議院第二議員会館 地下1階 第10会議室  
千代田区永田町2-1-2

- ◆国会議事堂前駅(丸の内線・南北線)①番出口より下車4分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車3分。当日、午後2時15分より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第10会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

- 議 題
- 1、最近の交通事故情勢について想う  
挨拶 議長 松本治男 警察庁元近畿管区警察局長
  - 2、秋の全国交通安全運動期間中の交通事故発生状況
  - 3、自転車運転者講習制度施行1年の実施状況について
  - 4、100km/hを超える規制速度の施行区間の選定等について
  - 5、交通事故統計(9月中及び10月25日まで)  
解説 警察庁交通企画課 落合大地課長補佐(警視)

報 告 去る9月27日開催の第242回交通部会は、松本治男警察庁元近畿管区警察局長が議長を務め行われました。

まず、松本議長より、「最近の交通事故情勢について想う」と題して開会挨拶がありました。都会の道路は街灯が多いので24時間ある程度明るいですが、地方の道路は夜間かなり暗く、歩行者の認識がどうしても遅れる。そしてLED化も進んでいないため信号機の維持にも経費がかかる。最近は昔余り推奨されていなかったハイビームによる運転を呼び掛けているようだ。また、弱視者

にも見やすい信号のあり方。障害物を自動的に回避できる運転システムなど、今後技術の進歩によって更なる事故死者減少が期待されるものがある。

次に、警察庁交通局交通企画課落合大地課長補佐（警視）より、「平成28年上半期における交通死亡事故の特徴」について解説がありました。上半期の交通事故死者数は1827人で、10年前と比べると全年齢層で4割、高齢者で2割減少したが、全体に占める高齢者の構成比は54.6%と依然高い。状態別に見てもいずれも10年前の5～7割まで低下しており、特に自動車乗用中は大きく減少している。また、7年ぶりに自動車乗用中が歩行中を上回った。歩行中死者の法令違反率は6～7割、自転車乗用中は7～8割で推移している。また、平成27年中交通死亡事故の詳細分析についても解説がありました。単路における正面衝突事故は、高齢者以外はカーブで、高齢者は直線で事故が起きやすい。これは高齢者の認知速度の低下を示している。また、高齢者の横断中事故は、右から自動車が走る（横断直後）場合より左から走る（横断終了直前）場合の方が多い。高齢歩行者の特性として、横断可能と判断する距離を左右同じと認識する。安全確認から横断開始まで1, 2秒の間が空く。横断中は左右の安全を確認しないなどが挙げられ、ドライバーにもこうした特性を啓発しているところである。

次に、「平成28年秋の全国交通安全運動」について解説がありました。秋の全国交通安全運動の実施期間は9月21日～30日の10日間で、交通事故0を目標とする日は30日に設定されている。特にチャイルドシートやシートベルトの正しい着用の徹底、薄暮時や夜間における歩行者や対向車の早期発見のための前照灯の早めの点灯、上向き点灯などを重点的取組としている。

この後、委員一同にて盛んな意見交換があり、有意義な会合となりました。

次回、10月26日（水）の交通部会（衆2）に

出・欠（いずれかに○印）

事務局宛 F A X 03-3507-8587

御芳名 \_\_\_\_\_

貴方様の F A X \_\_\_\_\_

電話 \_\_\_\_\_

**テロ対策への警備から、非会員で参加希望の方は、必ず、前日までに事務局へ御連絡下さい。**

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

H P <http://www.jidaisassin.jp> Eメール [kiyohara@jidaisassin.jp](mailto:kiyohara@jidaisassin.jp)